

エントリー
No.①



『オール1の落ちこぼれ、 教師になる』

宮本 延春 著

角田書店

REVIEW

将来したいことも、夢も無い。そして、部活やサークルに力を入れているわけでもなく、いわゆるガクチカもこれといったものもない。私は、これから先の将来を考えた時お先真っ暗だと思った。そんな時、この本に出逢った。著者は中三にして九九すら出来なかったのである。そんな著者があるきっかけで名古屋大学に現役合格し教師になるのである。私はそんな著者のリアルな話を読み、今からでも何かやろうと一歩踏み出す勇気が湧いた。

エントリー
No.②



『観光列車が旅を変えた』

堀内 重人 著
交通新聞社

REVIEW

今、日本全国で注目されている観光列車、その観光列車に筆者が乗車し、乗ったことについて説明しているだけでなく、写真も掲載されているのであたかも列車に乗っているような気になれます。また、石川県内の鉄道路線からはJR七尾線を走る特急「花嫁のれん」が紹介されています。この本を読むと鉄道ファンではなくても一度は観光列車での旅がしたくなるとても楽しい一冊です。

エントリー
No.③



『クリムゾンの迷宮』

貴志 祐介 著

角川書店

REVIEW

この小説は鮮やかな深紅色の表紙が思わず目に留まる、サバイバルホラー小説です。作中の一部のグロテスクな描写が物語に不思議な現実味と迫力を与える、いいアクセントになっています。読んでいく内に深紅の大地で繰り広げられる、生きるか死ぬかのサバイバルゲームの世界観に引き込まれ、ページをめくる手が止まらないこと間違いなしだと思います。ホラー小説が苦手な人も読みやすいと思うので、ぜひ読んでみてください。

エントリー
No.④



『コーヒーが冷めないうちに』

川口 俊和 著

サンマーク出版

REVIEW

過去に戻れるという喫茶店。ただしそこにはめんどうくさいルールがあった。それでも過去に戻りたいと願う女性たちの小さな物語。喫茶店のゆったりとした時間が流れる中で、激しく変わる彼女たちの感情が次第に、喫茶店の雰囲気吞まれていく。変わらない現実と変わってゆく彼女たちの感情に表現できない何かを感じることができるだろう。本屋大賞ノミネートの今読むべき本。

エントリー
No.⑤



『人生を変える修造思考』

松岡 修造 著

アスコム

REVIEW

毎日がマンネリ化していて退屈だ。楽しい人生を送りたい。そんなあなたにオススメしたいのが、「人生を変える修造思考」です。私自身この本を読んでから毎日が楽しく変化してきたことは確かです。松岡修造さんは、とにかく考え方が普通の人と比べてズレています。でも、そのズレた考え方こそが、毎日をポジティブに生活できる考え方なのです。さあ、騙されたと思って読んでみてください。きっと、あなたもポジティブになりますよ！

エントリー
No.⑥



『世界から猫が消えたなら』

川村 元気 著
マガジンハウス

REVIEW

脳腫瘍。グレード4。余命は長くて半年、ともすれば一週間すら怪しい。突然医者から宣告され、物語の扉は開く。絶望的な中、自分と全く同じ姿の男が現れる。この世界から何かを消す。その代わりに命を得ることができる。取引を持ち掛けるのだった。物語は主人公の長い手紙で成り立つ。大切な人やかけがえのない物に気づくきっかけを与えてくれる本ではないだろうか。心の声と向き合うことのできる1冊である。

エントリー
No.⑦



『ゾーンに入る技術：

「驚異の集中力」が最高の能力を引き出す!』

辻 秀一 著

フォレスト出版

REVIEW

この本には、題名の通り、ゾーンに入る方法が書かれています。ゾーンというのは、究極の集中状態になり、最高のパフォーマンスを発揮できる状態のことです。その状態に好きなタイミングで入れるようになる方法が書かれています！その方法はシンプルかつ単純で、やろうと思えば誰にでもできるものです。文章量もそれほど多くないので一度読んでみてください！

エントリー
No.⑧



『都道府県の持ちかた』

バカリズム 著
ポプラ社

REVIEW

なんとこの本の著者はあの人気お笑い芸人のバカリズム。タイトルのインパクトもすごいです。本の内容もぶっ飛んでいます。この本は各都道府県の紹介と、その県の「持ち方」。その持ち方が私には思いつかないものばかりで、驚きの連続でした。他県のことについて知ることができ、持ち方で都道府県の形を覚えることができるので、楽しく地理を学べます。子供にも人気の本で、大人にも読んでもらいたい、おすすめの一冊です。

エントリー
No.⑨



『ポジティブの教科書』

武田 双雲 著
主婦の友社

REVIEW

教科書と聞いて、分厚い、難しいなどネガティブなイメージを持つ人が多いのではないですか。そんな皆さんに、「ポジティブの教科書」という“教科書”を紹介します。イライラしたり、不安に思ったり、苦手な人と話さなくてはならなかったり、ネガティブな性格が治らない人もいます。この本で性格は変えられなくても、ポジティブにとらえる心を身に付け、人生をより楽しく、前向きに歩みましょう。

エントリー
No. ⑩



『マリと子犬の物語』

ひろはた えりこ 文
汐文社

REVIEW

亮太と彩兄弟に新しい家族が増えた。マリと名付けられた犬は、3匹の子犬も生み、毎日が楽しくて幸せだった。しかし、2004年10月23日中越地震が発生。避難用ヘリコプターにペットは乗せられない。誰もいなくなった村に取り残されてしまったマリたち。マリと子犬・亮太と彩、それぞれが必死に生きた16日間を、実話に基づき、地震の恐怖と実情ではなく「大切なものを守り抜く諦めない強さ」を伝える感動物語。ぜひ読んでみてほしい。

エントリー
No. ⑪



『モンテ・クリスト伯』

アレクサンドル・デュマ 作；

山内 義雄 訳

岩波書店

REVIEW

この物語は善良な主人公が罫に嵌められ、無期刑として監獄に幽閉される所から始まります。弁明を求め続けて数十年。絶望に打ちひしがれ、次第に人格が歪んでいく描写は鮮明であり、残酷ですが、この物語を名作たらしめる所以だと言えるでしょう。この物語は彼の壮大な復讐劇なのですから。かつて自分を嵌めた人達に復讐を行う姿は、読者に痛快さを感じさせつつも、最後には深く考えさせられる結末が待っているでしょう。